

とうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、作元義文君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開を3時ちょうどといたします。

午後2時50分休憩

午後2時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。5番議員、会派對馬の小島徳重でございます。一般質問に入ります前に、時の話題について1つだけ触れさせていただきます。

小網観音寺所蔵の観世音菩薩坐像の返還要求について、3月定例会において一般質問をさせていただきました。この件について、15日韓国の大田高裁が所有を主張する浮石寺に、韓国のお寺ですね、菩薩坐像を対馬に返還したらどうかと提案したとの報道がなされています。大田高裁の判断が今後どう具体化し、仏像が対馬に無事返ってくることを願うものです。もし市長のコメントがあれば後でもお聞かせください。

それでは、通告に従い3項目、5点お尋ねします。

1項目めとして、厳原港接岸中の韓国高速船による環境悪化についてお尋ねします。この件については3月定例会でもお尋ねしましたが、海洋汚染については事実関係の確認を初め不明な点がありましたので、再度この海洋汚染に絞ってお尋ねをいたします。

1点目は、平成26年度以降、韓国からの定期高速客船が厳原港に停泊中、電源を確保するため補助エンジンを稼働させ放しで海洋汚染を引き起こした事実はないかお尋ねします。

2点目は、このことに関して韓国高速船の陸電使用の実態についてお尋ねします。平成30年4月10日以降、韓国高速船は陸電施設を利用する意向が確認できたと対馬振興局建設部長が新聞紙上で表明されていますが、各高速船が陸電施設を使用しているか否か確認できているかどうかお尋ねします。

2項目めとして、日本人観光客の誘客による観光産業の活性化についてお尋ねします。これは、先ほど作元議員さんの質問と重なるところがあるかと思いますが、少し焦点を絞った点で2点ほど伺いたいと思います。

1点目として、平成29年度長崎県しま旅滞在促進事業における対馬の実績をどのように評価しているか、市長の見解を求めます。

2点目として、観光振興の推進体制にかかる仮称対馬市観光振興推進協議会の取り組みについ

てお尋ねいたします。

3項目めとして、主要地方道厳原豆酛水島線の加志箕形区間の改良についてお尋ねします。加志箕形区間の道路改良は、美津島町西地区、厳原町阿連地区住民の方々の長年の悲願であり、早期着工、早期完成が望まれています。

平成18年の対馬振興局長への要望に始まり、知事への要望も複数回なされ、平成27年度当初の建設部の説明では、工事期間は平成26年度から31年度までの5カ年間、総事業費30億を見込んでおり、平成26年度から測量を開始しているとの説明がありました。

平成28年度になると、入会林整備のおくれで工期が33年度までずれ込むとの説明がありました。この路線は、地区住民の命と生活を支えるまさにライフラインであります。急勾配、急カーブの連続、離合困難な箇所が多数あります。

利用度と道路状況の対比からすれば、対馬で最も悪条件下におかれており、主要地方道の名が泣くように感じます。地区住民は、一刻も早い着工、完成を望んでいます。現時点での進捗状況と今後の見通しについてお尋ねします。

以上、3項目5点について御答弁をお願いします。必要に応じて一問一答をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 小島議員の質問にお答えいたします。

まず1点目の厳原港接岸中の韓国高速船による環境悪化についてでございますけども、この件につきましては平成26年第2回定例会及び平成30年第1回定例会において同様の質問をいただいておりますけども、厳原港における国際線からの油等の流出はない旨の回答と、陸電施設の利用につきましては、県振興局と船舶運航会社で協議中であると答弁したところであります。

平成26年度以降、韓国からの定期高速船による厳原港の海洋汚染がなかったかの質問でございますけども、改めて今回県振興局に確認をいたしましたところ、韓国からの高速船による油等の流出事例は記録はなかったということでございます。

次に、平成30年4月10日以降の陸電施設の利用状況でございますけども、高速船コビーは平成30年3月30日以降厳原港には就航しておらず、平成30年9月末まで入港の予定はなく、5月から双胴船のニナが就航をしているとのことでございます。

現在まで陸電施設の利用はありませんが、平成30年4月10日に運行会社と利用の意向が確認できております。現在、船舶給電の電気使用料にかかる覚書の締結に向けて調整中であるとのことでございます。今後においても、県振興局、市で協力しながら、一日も早く陸電施設を利用していただけるよう努力していきたいと考えております。

続きまして、2点目の日本人観光客誘致による観光業の活性化についてでありますけども、有人国境離島法によりますしま旅滞在促進事業における対馬への送客実績でありますけども、本事

業は滞在型観光を促進するため滞在プランとセットにした旅行商品を開発し、旅行費用を低減化することにより各島への集客をふやそうとする事業で、県と市が共同で取り組んだ事業でございます。

平成29年6月から平成30年2月末まで宿泊分までが対象となり、25社が124の旅行商品を開発、販売していただき、県全体の送客実績は1万1,680人泊でございます。そのうち、対馬への送客実績といたしましては、対馬から19の体験メニューの提案を行い、7社の旅行会社から529人泊の送客をいただいたところでございます。

当初、本事業による県全体の送客目標を3万4,000人泊としていたところでございますけれども、約34%の達成率にとどまっております。県及び各島の市町では、その原因は各島の認知度がまだまだ低いという分析結果が出たため、急きょ情報発信事業にも取り組んだところでございます。フォーク歌手の福山雅治さんを起用した青いぜ！というコマーシャルがそうだそうです。

一方、対馬におきましては、送客実績529人にとどまった要因として、旅行者へ登録している宿泊施設が少ないこと、低料金で短時間でできる体験メニューが少なかったこと、高齢者向けの体験メニューが少ないことなどが大きな要因として考えられます。

市といたしましてはしっかりと分析し、次の展開につなげていくためにも、旅行商品の造成を行っていただいた旅行会社や、商品をつくらなかった旅行会社等への聞き取り調査を行い、課題の抽出をしていくことが重要と認識しておりますので、今後訪問、聞き取り、分析をしっかりと行ってまいりたいと思います。私自身も、壱岐や五島に比べて若干低いということで、何とかこれをもう少し盛り上げてまいりたいというふうに考えております。御理解をお願いいたします。

次に、対馬市観光振興推進協議会についてでございますけれども、当協議会は平成28年度に策定しました対馬市観光振興計画を推進するため、観光に係る各業界団体の皆様に委員になっていただき、平成29年3月に立ち上げを行ったところでございます。

本協議会の目的は、観光全体の情報共有、観光振興の取り組みや進め方、要望等を協議することとなっております。第1回目の会議では、トレッキングコース、サイクリングコース、トイレ、休憩所などの観光施設整備について御協議いただいたところでございます。

次に、3点目の主要地方道巖原豆殿美津島線の件でございますけれども、本事業は改良延長2,220メートル、総事業費約30億円で、平成26年度に着手しております。平成29年度までに測量、地質調査、道路詳細、設計等を実施したところでございます。本年度は、引き続き地質調査並びに道路詳細設計を実施する予定と伺っております。

現在までの地質調査の結果、軟弱地盤や地滑り箇所が確認されたことにより、当初の予定より地質調査並びに道路構造物等の詳細設計に時間を要しているということを聞いております。今後とも予算確保に努め、早急に工事着手できるよう取り組むということで振興局とは確認をしている

ところでございます。市といたしましても、早期完成に向け積極的に要望等を行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 御答弁ありがとうございます。まず1点目から少しお尋ねを試みたいと思います。

韓国高速船からの海面汚染は記録上ないということになっているということの御答弁でございますが、このことについては先般の質問のときにも、いわゆる油漏れ関係の会議で県の振興局のほうからそういう説明があったというふうに聞いておりますが、その対策協議会の会議内容等は私のほうでは詳細は把握はしておりませんが、大きないわゆる事件事故、油漏れの事故等がなかったというふうな捉え方での報告だったろうと思うんです。

ところが現実には、今個別に市長はある特定の船の名前を上げられましたけどもね、そのことについては今は確かに入っていないけども、平成26年度以降私が確認したところでは、市長にも今写真をお渡しを前回に引き続きしていますけども、その写真をもう一度御確認いただいた上で、海面の汚染があつてないかということの認識をしていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどいただいた写真でございますけども、この写真を見る限り私も油とはなかなか認識しづらいというふうに思っておりますし、実はきのうも本日のこの一般質問の資料を整理中にちょっとここは気になりましたので、きのうも岸壁のほうに行ってみたんですけども、一部そういうふうな反射の加減だろうとは思いますが光る部分は確かにありましたけど、それが油と言いますか油膜と申しますか断定できるようなところはありませんでした。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 市長は確かに現場にまで足を運んでいただいたということでお話を今いただきましたが、油とは言い難いというふうに市長の立場からするとそうお答になりましたけど、これは現実いわゆる油を直接海に流したんじゃないんですね。

どういう状況で発生しているかというのと、その写真見てもらってわかるように、これはエンジンをかけていると排気ガスが出ますよね。そして排気ガスといわゆるこれ循環水といいますか水と一緒に出る仕組みにこの船なっていますけども、多くの船がそうですね、遊漁船から何かも同じ仕組みになっていると思います。

そうしますと、不完全燃焼を起こすと、その排気ガスの中に油分が含まれているのが不完全燃焼されたのが空気中に出ますと冷えて、水面に落ちるときには排気ガスの中の油分が水面に落ち

るわけですよ。

だから、油そのものを直接流したということは、これは市民団体の方々も対馬新聞の紙上でもそういつてありますけど、私もそういうふうに思います。認識していますよ。

これは後ろからだけじゃなくて、もう1枚の写真、市長のところにも渡していると思いますが、船の横からも出ている写真がありますよね、ございますよね、2枚目の写真。ここで言えば下のほうの写真、これの船のサイドのところも見てください。これもべたっとしていますよね。これも油そのものを直接流したんじゃないんですよ。だけど水面を汚している、汚染していることは確認できると思います。これは、市長は行かれたということですが、市民団体の方々も毎日行っているんじゃないんですけど、やっぱり確認のために出かけてあるんですよ。

今この写真にも出ている客船そのものは、市長おっしゃったように今は入港していないんです。ところが、ほかの船も多かれ少なかれ陸電を使用しない状態ではいわゆる補機ですね、補助のエンジンをかけるとこういう状態は起きているんですよ。そのことについて認識はいかがですか。ほかの船でも起こり得るということについては。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も船の構造等に詳しいわけでもございませんけども、そういう事例があれば何らかの対策が必要なのかなというふうに思いますけども、そういう関係で今回振興局のほうも陸電施設を使うための覚書を締結するというところで進んでいるということを知っておりますので、できる限りこの接岸中はこの陸電施設を使用させていただけるように、市としてもそういったお願いをしていきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今市長おっしゃったようにぜひこれは、どの方の船にしても、漁船にしても遊漁船にしても同じなんですよね。油だれも直接流している人はいないんですけどね。エンジンかけますと、エンジンふかすと黒煙が出ますよね、そしてその後は水面にばい煙のとか煙のやつが冷えたのが水面に落ちたら広がりますよ。これは船に乗られる方は皆さん認識があると思いますよ。それで、この大きなやっぱり客船クラスのものには補助エンジンにしても結構な、ずっと長時間使いますとそういう現象が起きます。

それで、市長今御答弁になったし、振興局の部長も使ってもらえるように要望しますということを知っておりますけど、これはもう少し毅然とした態度でそのことについては、今覚書を交わすとおっしゃいましたけど、しっかりとやはり国際的なルール守っていただく、対外的な、韓国からもどんどんたくさん次々においでになるわけですからね。長くよい関係が続くためにも、きちっとした状態をつくり上げる必要があると思います。

それでこういう条文、この前もちょっと紹介しましたけどね、海洋汚染防止法の第2条の1項

には海洋汚染防止等の責務というのが期待されています。それから、第2条の2項には船長等の海洋汚染を防ぐ防止の義務というのがあります。詳細は述べませんが条文確認してくださいよ。

それから、外国船だからといってこれ遠慮したらいけないと思うんですよ。これは、同じく19条の51という項目見ていただいたらわかりますけども、外国船舶の監督という項目があってその第1として、外国船舶の設備等の事実基準に適合しないときの改善命令というのが国土交通大臣が出せるようになっていきますよ。

それから第4項には、外国船籍の航行停止等の処分ができるようになっていきます。ですね。だから、お願いするんじゃなくてぜひそれを守らせるようなきちとした指導、それをすべきだと思うんです。このことについては、港湾の管理者は県だけでも現在は市のほうに権限譲渡されているというふう聞いていますよね、港湾の管理は。

だから、このことについては県と市の関係もいわゆる両方の立場があいまいなところがあると思うんですが、そのあたりについての指導を直接するとしたらいかがですか。どちらが直接の場面でされます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） その振興局との管理委託契約につきましては、私が聞いているところによりますと、あくまで入港料とか岸壁等の使用料関係の管理委託を受けているということで、港全体のその保安状況と申しましょうかそういったところまでは市のほうが管理をちょっと受けているのかどうか、ちょっと今のところでは私もはっきりわかりません。

担当部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 建設部長、小島和美君。

○建設部長（小島 和美君） 失礼します。巖原港湾の管理の状況でございますけど、用地の使用、そして岸壁の使用許可関係の業務を権限移譲で今受けて市がやっております。

環境汚染云々も含めた全体的な秩序と申しますか、安全安心な部分については、当然現場を管理している市におきましても、そういったいろんな問題発生時には県のほうと連絡を取りながらやっておりますけど、最終的な権限というのは施設管理者の県になる、この問題はですね、とも捉えております。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） いずれにしても、管理については県との協議が必要でしょうし、それから現実の場面ではいわゆる海上保安部ですね、これの権限にも関係があると思いますので、ぜひこのあたりは市長自分が足運ばれたように、定期的にでもやはり各高速船、それぞれ形態、船の形も違いますので、しっかりやっぱり見きわめていただいて、そして陸電を使わない限り事の大小かかわらず同じことが起きるわけですからね。陸電をぜひ使うような指導も徹底していた

だきたいと。

そして、これは市の環境基本計画の中にもきちんとして、対馬市は自然を大事にすることでそれを対馬市の大きなねらいとするというふうにあるわけですから、権限云々のこともですけどもやはりそういう意味でも対馬市の立場をしっかりと明確に示していくべきだというふうに思います。

一応それで、陸電の施設を使うように覚書を交わすということですから早急に進めていただくことと、そして実際にその後も陸電施設を使っているかどうかの確認は電力会社と確認すればわかるはずですから、ぜひそのあたりはしっかりお願いをしておきます。これで一応このことは置きたいと思います。

これは、2番目の国内観光客のいわゆる誘客のことについて、これは先ほどの作元議員さんの質問とも重なってくるわけですけども、この実情を市長のほうからも先ほど説明がありましたけども、しま旅だけに限って資料がはっきり、私も観光商工部からもらいましたのでそのことをもとにお話をさせていただきたいと思います。

これ見ていただいてわかりますけど、県下の各離島のしま旅による誘客ですよ、市長もお答えいただいたようにこの数見ていただいて、対馬市にこの事業によって滞在していただいた人の数、ちょっと私けたを1つ間違っているんじゃないかなと最初思ったんですよ、資料もらったとき。たった520数人ですよ。これはやっぱり大きな課題だと思うんです。

これ市長もいろいろ、宿泊施設の問題とかいろんなことを上げられましたけども、やはり大いに反省すべきことだし、今後に生かすためにはやはりこれ深刻な数字として受け取るべきだというふうに思うんですよ。これちょっと手元にとらしてもらいますけど、壱岐市が7,716人ですよ、7,000ですよ、五島市は2,294人、新上五島は1,141人、対馬市は529人と、市長の答弁のとおりです。

全体も、やはり県の事業でしたけども目標の33.何%しかいかなかったけど、対馬は目標幾らだったか市長記憶ございますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も担当部のほうに確認したんですけども、一応目標数といたしましては1,899人ということでございますけども、この数値がどこから上がった数値かちゅうのをちょっと私もまだよく確認していないんです。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 市長おっしゃったように、私も何から上がった数字かわからないんですけど、対馬市の目標は9,908人だったというに私は聞いています。観光部からもらった資料ではね。9,908人に対して、対馬市に訪れた529人というのは、5.3%だということですよ。

これはいわゆる島全体にきた人の数のうちの対馬にきた529人は4.5%だと対馬が目標としたのは、いずれにしても、何か部長ありますかどうぞ。

○議長（小川 廣康君） はい、観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） 今、市長が申しました誘客の目標数というのは1,899です。今議員さんが言われた9,900という数字は、旅行社がうちのこのコースですね、それを企画した数字が、一応募集が9,900の公募をかけたという数字です。そのうち参加してもらったのが529名ということになっています。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今部長から答弁ありましたので、そのあたりの数字のとり方は別にして、とにかく離島の中でも極端に少ないというのはわかりましたよね。

やっぱこのことは市長も言われたように、情報発信の不足というかまずさというかということがあると思うんですけども、それにしても県が情報は一元化で出したんですよ。

その中で、なぜ対馬だけが落ち込んだかという、いわゆる宿泊する施設の不足ということもあるでしょうけど、ほかにまだやはりあるんじゃないでしょうか。どうでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かにこのことにつきましては、対馬に訪れる観光客の年齢層の問題があるかと思えます。アンケートの資料を見ますと、60代70代が多いというようなことも記載されておりますし、そしてまたその時期が対馬の場合に10月から11、12の冬場になっているというようなことも、ちょうど海が時化るときであろうかなというようなことも心配しております。

それに加えて、今対馬の旅行業者、ホテルとか宿泊業関係の方が旅行業者へ登録をしている宿泊施設が少ないということも一つの課題になるというようなことで、こちらも今回認識をしているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 市長も分析していただいているから、今そこの中にもヒントありましたですね。島全体で滞在された方たちの年齢を見ますと、60歳代と70歳代で80%を超えているということですよ。

そうすると、やはりそこのところ入れれば、そういう年齢層へのアピールの仕方となると情報の出し方がいろいろあると思うんですよ。情報の出し方として、何で島に来られましたかと聞いたら、旅行会社のパンフレットちゆのが46.4%なりましたね。そして新聞紙上で見たのが12.7ですね。これ合わせると81.4%ですね。やはり年齢層にターゲット絞ったピーアールしないといけないということがわかると思うんです。



そしてインターネットが11%、高齢者層でもインターネット使える人はインターネットでも活用していますけど、そこにもやっぱり市として関係団体と十分打ち合わせてアピールする必要があるんじゃないんでしょうか。

そして、冬場にかかってしまったということは、この事業はもっと早く打ち出されたはずですけども、対馬市の準備体制ね、先ほど作元議員の答弁のときにあったように、今年度はプロジェクトチームを組んでやりますよと言われてたんですけど、去年は出してくれたと思うんです対馬市は、それは十分踏まえてありますか、去年の取り組み。いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 取り組み内容については部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） お答えをいたします。昨年度4月に新法ができて、県との調整の中でいろいろ時間がかかっていたのはもう間違いありません。

特に、体験メニューを作成した上で県のほうが旅行社のほうに出すということで、事業としては取りかかりはしたんですけども、直接体験メニューを作成し旅行者のほうに出したのは多分夏以降だろうという認識をしております。

だから、若干おそくなったというのは県のほうも認識をしております、情報発信とかも昨年度少なかったということで、後半情報発信に切りかえて事業を周知をしたということで理解をしております。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 昨年度の反省踏まえて、今年度はそういうこと、同じような二の轍を踏まないようにということで動き出していると思っておりますけども、ちょっと宿泊関係業者の方に聞いたんですけど、今年の予算配分は昨年度の何か実績配分に基づいて予算が配分されるようなことをちょっと耳にしたんですけど、まさかそういうことはないと思うんですが、そのことについては市長なり部長なりいかがですか。しま旅のその滞在についての旅費は、予算配分は。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） ただいま予算の配分については、県全体で予算はありますけども特に対馬市ということで、うちのほうで把握している予算が減ったとか、現状に昨年度に合わせるというようなことを聞いた記憶はありません。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 昨年実績に基づいてそういうことはないとも思っているんですけどね、ぜひそのことは宿泊業者とか関連業者の方に、安心できるようにどの場かで説明をしていただいとったほうがいいと思います。もしそういうような昨年実績の枠取りで行くというよう

なことになれば、それは対馬の立場を十分考えるような施策を打っていただきたいと思います。

それから、対馬にこの事業で来られた方々が何の目的で来られたかということについては、これ市長がよく言われるように対馬の自然や景色、それから歴史、文化やあるいは世界遺産、あるいは日本遺産関係のことに興味があったと。特に自然と景色ということでアンケート結果が出ています。だから聞き取りをしますとおっしゃったけど、聞き取りをする前に今出とる資料を分析していただいたら打つべき手はいっぱい出てくると思うんですよ。

それで、この自然景観のことについて少し提言をしたいと思うんですが、先ほどの作元議員さんの質問にもあったように、いわゆる自然、景色を売り出すためにユネスコエコパークへの登録ですね、これは市の基本計画、総合計画の中に上げてあるんですが、このことについてぜひ打ち出すべきだと思うんですが準備は進んでいますか。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） 今のユネスコエコパークですかね、このしま旅の分が体験メニューの作成が必要ということですので、体験メニューの中に現在今こういったものは入っておりません。既に15ぐらいですかね、体験メニューは県のほうで上がっていると思いますけども、その中にこのユネスコエコパークの件については現在のところ体験メニューには入っていません。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 私始めに断ったように、私は国内からの誘客についてお尋ねしますが、昨年のしま旅のことを一つの例にとりながら質問していますよということをお断りしたと思うんですがね。

しま旅だけやないんですね、国内からのお客さん呼び込むために対馬の場合は売りはやっぱり自然であり景色だから、そのことでこれは市の基本計画、総合計画に上がっているわけですから、ぜひユネスコエコパークの件は担当部局で進めていただきたいと思うんです。市長いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かにこのユネスコエコパークの関係も進めながら、このしま旅としての誘客を図っていききたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） しま旅だけを言っているだけじゃないんですけどね、ぜひこのことは総合計画では上がっていますよね。これ準備進めていただきたいと思うんです。打ち出しただけで、いつも計画はできるけどそれを進める過程ちゅうのがいつも積み上げが弱いと思うんです。

これと関連してもう一つ提言をしたいと思うんですよね。先ほどあそうベイパークのことを取り上げられました。すばらしい公園、これは人の力を加わりながら今でき上がっているんですが、浅茅湾をこういうふうなことに市長考えられたことはないですか。世界で最も美しい湾、九十九島というのがことし佐世保市がこの登録申請をして認められましたね。お聞きになったことないですか市長は。世界で最も美しい湾クラブというのが、世界的な団体があります。市長初めてですか、どうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私もその話は初めてでございました。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 多分市長部局の方々は御存じの方もいると思うんですよ。観光商工部長も多分御存じだと思うんです。ぜひこのことも先ほどのエコパークとあわせて浅茅湾を世界的に売り出しましょうよ。

これ九十九島がなったんですから浅茅湾間違いなく、申請取り組めばなります。湾の規模から、それからいろんな湾内で暮らしている人々の生活、先ほどのベイパークのことじゃないですけども人々がいかに自然を大事にしている、あるいはそういうことを取り組んでいるかということをしたら申請できます。そうすると、しま旅に限らずいろんな人を対馬の中に呼び込めると思うんです。ぜひこれ2つのことは、市長取り組みに対する姿勢というか気持ちをお聞かせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私もこのことにつきましては、本当ははっきり言ってちょっと認識がありませんでした。わかりませんでした。

そういうことで、確かに浅茅湾は九十九島には負けないすばらしい魅力を持っておりますので、このことにつきましてはさっそくいろいろと研究してまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 市長のそういう、研究じゃなくて取り組むようなことで進めてください。研究は僕は一番弱いと思っています。そのときはもう検討が弱いと思っています。いやもう市長、今やる気でおられるというふうに私は表情から伺っていますから、そう確信して質問させてもらっておりますよね、ぜひそうしましょうよ。

それが、やはりいろんな具体的な場の対馬を生かすことになっていくんで、何か打ち出さないとやはりいけないと思うんです。九十九島は佐世保が知名度調査をしたら、このことの申請をしてから知名度が全国的に、今までは40%の人しか知らなかったのが一気に60%に上がったそうです。九十九島ということ、佐世保ということが知られたら。だからぜひ対馬も頑張らしましょうよ。

それからもう1点、今度は歴史文化のことでいったら、日本遺産の観光利用についてですね。これは3月議会のときに長郷議員さんがおっしゃいましたね。どういう取り組みをしたらいいんじゃないかと、取り組みが遅いんじゃないかということを指摘されたんですが、これ文化庁のいわゆる追跡の結果の、環境庁ですかねこの取り組みは、

出ていたら、7割が日本遺産を生かしていないと。その中で、対馬を含む長崎県の国境の島のピーアールもまずいとはっきり指摘をされています。対馬の場合は組織づくりができていない、それから民間との関連でリーダー不足、いわゆるコーディネーターが育っていないという指摘がされています。このことについては市長御存じですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） そのことにつきましては、何か資料の中で見たことがあるというふうに思っておりますし、そういった対馬を理解されたコーディネーターの方に、今後そういった売り込み方といいますか、広報広聴のやり方ですね、こういったところもいろいろと御指導願えるようなシステムができればなというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） このこととあわせて、いわゆる観光推進体制が去年しま旅に限らず出してくれたということと、今言ったように総合計画に取り上げてあることも具体化していないということいろんなことをあわせながら、ぜひ対馬市の観光振興推進協議会ですね、これことし、もう28年度これできた計画ですからもう3年目ですよ。3年目で残り2年ですよ、もう半ばに来ているんですからね、これをぜひ機能させてしましましょうよ。そのように推進計画には書いてありますからね。

そしてさらに一歩進んだら、今度しま旅を例にまたとりますと、対馬に誘致できなかった大きな理由としては、関係団体と物産協会も含めてですよ、あるいはいろんな各種団体との行政との連携が足りなかったということがあって、振興推進計画には対馬版DMDも将来は立ち上げたいところあります。このことについてはどうされるんですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 対馬版DMOでしょう。はい。DMOのほうも決してあきらめているわけじゃなくて、これも何とかしてつくり上げていかんばいかんということで、観光商工部初めとして協議を進めているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 市長からそういう強い決意をお聞きしましたので、ぜひ多くの方々に対馬に来ていただくように、観光は今対馬の第一の産業になりつつあるわけですからね。ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

それから最後に、加志箕形間の道路改良につきましても先ほど市長から説明がありましたけど、ぜひこれも一刻も早く進めていただきたいということを強く要望して私の質問終わらせていただきます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

---

○議長（小川 廣康君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでございました。

午後3時50分散会

---